

# ピアノ委員会

## なぜ長井に？ベールに包まれた名器



### この音色をいつまでも響かせて

今年で99歳を迎える1台のピアノが、山形県立長井高等学校にあります。ピアニストなら誰もが憧れる名器「スタインウェイ」のピアノ。来訪当時で4,600円——それは一軒家が4～5軒建つほどの価格だそう。それほど高級品がなぜここにあるのか。片隅に眠っていたピアノが蘇るまでの秘話と、大切に守り続けていこうと奔走する「ピアノ委員会」の活動を紹介します。

『町を挙げての歓喜。長井高等学校でスタンウエー、グラランドB型の優秀なるピアノを購入したので披露のため日曜会、長井中学校、長井小学校等の後援の下に来る九日午後一時より同校講堂に於いて大音楽会を開催する』

——その記事が新聞に掲載されたのは1926(大正15)年5月のこと。

「その一年前に撮影された1枚にピアノが写っているのが、大正14年に購入したのではないかと思われますが、なんのために誰が購入したのかなど過去の記録は

見つかっていません」。そう話すのは、スタインウエイピアノの維持とコンサートの運営を行っている「ピアノ委員会」の今泉壮さん。「推測ですが…」

と前置きしながらも、ピアノ委員会では、当時長井に存在した「日曜会」を中心とした有志達が寄贈したのではないかと考えています。日曜会は政治や文化、経営を学ぶ地元の有識者の集まり。長井の地に、音楽を通して文化の種を蒔きたいという思いで購入したのではないかという説には、十分な説得力があります。

さて、このスタインウエイのピアノとは？同社は1836年にドイツで誕生。以来、職人がすべ

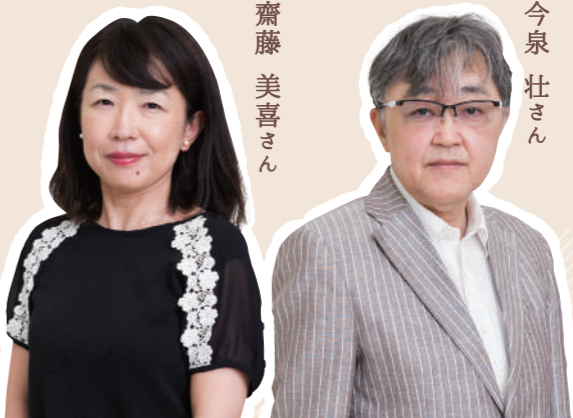


昭和2年 長井高等女学校の卒業記念写真帳より

て手作業で、最上の音をつくり上げています。長井高校で長年にわたって音楽の教鞭をとり、女学生時代からこのピアノを弾いていた故山口のぶ先生の言葉を借りれば「フォルティシモは宇宙のような広がり、ピアノニシモは空のような澄んだ美しさを、ピアノ

今泉 壮さん

齋藤 美喜さん



は神のような神々しき」と表現される名器。そのピアノを弾いたことがきっかけで音楽の道を目指した人、その音に思いをのせ歌う日々を生きがいにした人…。長井の学び舎での大切な思い出として、多くの学生の心を魅了し続けたピアノです。

狩野 峰彦さん



竹田 幸子さん



齋藤 之さん



### 知らなかったピアノ

「25～26年前、私が在学中は同窓会館が宿所になっていて。物が置いてあったり、ユニフォームが乾かしてあったり、ピアノという認識はなく…。それがスタインウェイピアノと聞き、あとから驚いたそう。「自分たちの年代にもっと広めていかないと！」守っていくためには若い世代への認知活動が必要、と梅津さんが教えてくれました



梅津 壮一郎さん



寺嶋 ひろみさん



芳賀 統一さん

しかし時は流れ、それほどピアノも、新しいピアノの購入に伴って現役を退き、いつしか同窓会館の片隅に。校舎の全面改築を機に処分されることになったその時「待った！」をかけた先生がいました。

その方は当時の音楽の

先生であり、ピアノ委員会のメンバーでもある齋藤美喜さん。「母校の長井高校に赴任した1999年に校舎が全面改築されることになり、音楽の授業は同窓会館で行っていました。建物の2階で古いピアノを見つけ、蓋を開けてみると、数カ所剥がれてはいるものの鍵は象牙、そしてスタインウエイのマーク！でも、本物とは思えないくらいポロポロの状態。しばらくして、そのピアノを処分するとい話を耳にした時は、処分するなんてとんでもない、なんとかしなければという思い

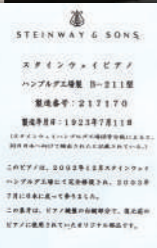
### 「なんとかしたい」熱意が修復へ

「ただでした」と、当時を振り返る声にも力が入ります。

とはいえ、どこに連絡したらいいのかもわからないまま、すぐ思いで「104」に電話。聞き出したスタインウエイジャパンに電話すると、製造番号からハンブ

ことに。

その1年後、齋藤さんにスタインウエイジャパンから一通の手紙が届きます。同封されていたのは、ハンブルグで修復されたピアノの写真。「市場に出せばすぐに買い手がつく良いピアノですが、



一度学校でお披露目の演奏会をしませんか？ピアノも喜ぶと思います」という思いもよらぬ提案がそこには記されていました。齋藤さんは実物を見に東京へ。同社の鈴木達也社長の案内でピアノが待つ部屋へ。息を吹き返

し、光り輝くピアノがそこにはありました。鈴木さんに促され、緊張しながらおそるおそる弾いてみたそう。「その音色は言葉では伝えきれないほどの素晴らしいです。弾きやすくて、音がキラキラと輝いていて、余韻もきれいで…」これまできちんと管理でき

### 親子でちがう、ピアノの記憶

梅津壮一郎さんと同時代のピアノを知っているというのは布施さん。「所々剥がれ、光を失ったもので、とてもじゃないですがピアノと呼べるような音ではなくなっていました。そう語る布施さんのお母さんは、美しい音色の時代を知っていたそう。交流している音楽の先生に、一緒に守ってほしい、と声をかけられ入会したと言います

布施 珠倫さん





1. スタインウェイアーティストであるエレナ・クシュネローバさんの演奏は、生徒たちだけでなくOG・OB、一般の方々の心にも響きわたり、大きな感動を生みしました  
2. 復活コンサート当日に開催された試弾会。OG・OBが集い、演奏し、声高らかに歌いあげました。山口のぶ先生が指揮をとり、拍手喝采!



第4回 コンサートで、木曾真奈美さんとごっすり笑顔の故山口のぶ先生。先生は亡くなられる直前まで毎回コンサートに足を運んでくれたそう

### 八木 文明さん

#### 伝え続けていく、という役割

第1回 コンサートから関わっている八木さん。「続けなければ意味がない!」と心に決め、ここまで来ました。生徒も実行委員も入れ替わる中で、初心を保ち続けるのは難しいことです。でもピアノの歴史的価値を伝え続けたい!」そう思い続けられるのは、スタインウェイピアノを通して出会える演奏者とのすばらしい縁のおかげだそう

長井に来てくれるようになったのもピアノがあったからです。私たちも先人たちと同じ思いを持って活動していきたいと思っっています。ピアノを基軸として多くの人々が縁をつないできたと語る今泉さんに賛同するように、深くうなずく会のみなさん。

「ピアノは地域みんなのもの。地域として守っていかれたらと思います。長井にこのピアノがあることは誇りです」とにこやかに語る八木文明さん。続いてピアノ委員長の鈴木一成さんは「進学で地元を離れたある生徒が、母校の誇

りを聞かれたときに『スタインウェイのピアノがあること』と答えたと話をして聞きました。私たちが思っていたよりも感動しました。今は大事に保管している状態ですが、今後は定期コンサートだけでなく小・中学生も気軽に訪れられるイベントを開いたり、ピアノを通して地域の人たちに夢を与えられる活動が続いていきたいです。それぞれの言葉から、地域の宝としてピアノを守り続けていかなければという意気込みが伝わってきました。

### 後藤 浩さん

### 青木 芳夫さん



長井高校の階段おどり場に飾られている写真。ある卒業年度の生徒たちが、卒業アルバム用に…と企画した時のもの。「ながい歴史は 学友との日常をいつまでも いつまでも このままで」と歌とピアノにのせたのです。ピアノのある学び舎での日々を、大切に思う心が見えました

紆余曲折はあったものの2004年、同窓会でピアノを買い戻すことが決定。ピアノが長井に戻る2カ月後に、世界的に有名な

長井にスタインウェイのピアノが戻ってきた! さっそく音色を確かめたという齋藤先生は、「手が震えました。美しい調べに胸がいっぱいで…」と最初に弾いた時を振り返ってくれました

ていなかったことへの申し訳なきも相まって、弾きながら涙があふれてきたと齋藤さん。同時に、なんとしても長井高校に戻りたい、という気持ちが強くなったと言います。

「修理費だけで構わない」という鈴木さんの好意に感謝しながらも、取り戻すには越えなければならぬ多くのハードルがありました。そこで、同僚であり、長井高校の卒業生でもある後藤浩さんに相談することにしました。「齋藤先生の話聞き、ピアノに対する熱い思いに『なんとかせねば!』と胸を打たれました」と後藤さん。二人は校長と同窓会に話を持っていきますが、一度は処分する話が出ていたピアノのこと。すんなりと事は運びません。しかし、その話を知った後藤さんの同級生や音楽活動を続けてきた人々が、「戻そう!」と声をあげてくれたのです。

ピアノのエレナ・クシュネローバさんを迎えての凱旋復活ピアノコンサートが開かれることになり。この急展開に、後藤さんは同級生の今泉さんたちへ助けを求めます。

そのメンバーの一人梅村律子さんは「私も、私の母も、このピアノには深い思い出があります。そこでピアノに思い出のあるOG・OBへのインタビューを重ねて、ピアノの記憶をさぐりました。山形県の古い出納帳を見返してくられたり、国会図書館に向いて記

## 地域の宝として守り続ける活動



第1回～第6回までのコンサートパンフレット。そして第7回目が今秋に開催されます

録を調べてくれた同級生も。大変でしたが、紐解いていくのが楽しかったと目を輝かせます。有志で開催されたコンサートは大成功に終わり、さらに気運が高まったそう。このことがきっかけとなり、同窓会の中にピアノ委員会が発足したのです。

その後は3年に1回のペースでピアノを招き、コンサートを開催しています。「ピアノを通して長井に文化をつくりたいと行動した日曜会の思いは地域に住む人々のため。一流のピアニストが

### ピアノとの再会

#### オペラ/ソプラノ歌手 梅津 碧さん

第6回のコンサートでは、ピアノの音色に合わせて歌われていますね。時を経て、今度は舞台上に立つ側になり、いかがでしたか?

在学中のコンサートで、このピアノのことを知ることができ、それは貴重な機会だったと今も感謝しています。今度は聴かせる立場として舞台上に立たせていただくというのは、それはそれは感無量です。唱歌「ふるさと」の3番「志を果たして、いつの日にか帰らん」という歌詞を思い出しました。そして率直に、母校の高校生の反応も良く、とてもかわいかったです(笑)。

今後ピアノを守って行くために必要なことはどんなことだと思いますか?

私の中で、一般的なスタインウェイの音は、柔らかいのに透明感があり、ひとつひとつの音が粒だっているイ

一度は存在の灯火が消えかけたピアノ。ドイツより海を越えて長井にやってきてから、来年で100年を迎えます。永遠に響かせたいこの音色——人々の思いを音に乗せ、これからも地域にあらたな文化をもたらしてくれることでしょう。

お忙しい中、取材に協力いただき、ありがとうございました。

### 梅村 律子さん

復活コンサート後もなく、その感想が新聞に投書されたそう、今も大事に保管しているという梅村さん。「南陽市立宮内小の女の子でした。とても丁寧な文章で驚いたのですが、「いつかきっと、ピアノがうまくなって長井のスタインウェイでひきたいです」と締めくくられていて、小学生にも想いが伝わったと感動でした」

### 梅村 律子さん

### 鈴木 一成さん

ピアノ委員長

### お知らせ

## 第7回 スタインウェイピアノ復活記念 及川 浩治 ピアノ・リサイタル

# 11月15日(火) 開演 18:30

長井市民文化会館にて開催  
詳細は下記 ピアノ委員会まで

### 問い合わせ

長井高等学校 鷹桜同窓会  
ピアノ委員会 八木(やぎ)まで

☎090-5230-8819  
✉happa-fy@dewa.or.jp